

平成 23 年 5 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 23 年 5 月 26 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9816

今月のトピックス

- 腸管出血性大腸菌感染症の食中毒がありました。
- 風しんの報告が増加しています。
- 麻しんの流行に注意が必要です。
- 伝染性紅斑で、栄区が警報レベルとなっています。

全数把握の対象

- 1 **細菌性赤痢**: 1 件の報告がありました。菌種は *Shigella.sonnei* です。渡航先(カンボジア王国)での感染です。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 7 件の報告がありました。うち 2 件(1 件は抗体で O111 陽性、もう 1 件は O157 VT1 VT2)は焼肉チェーン店関連の食中毒です。また、他の 5 件では、10 代男性 2 名、30 代男性、60 代女性から O157VT1VT2、60 代男性から O121(HUS を発症)がそれぞれ検出されています。感染経路については調査中です。
- 3 **A 型肝炎**: 1 件の報告がありました。国内経口感染例の 9 割は、魚介類によるものと言われています。ただ、手洗いの不徹底による人から人への感染の恐れもあるので、十分な手洗いが予防には重要です。
- 4 **レジオネラ症**: 肺炎型 2 件の報告がありました。感染経路は不明です。
- 5 **後天性免疫不全症候群**: 4 件(3 件は無症候期)の報告があり、すべて国内の同性間接触によるものです。厚生労働省エイズ動向委員会(5 月 23 日)の年間報告(確定値)で、昨年 1 年間の全国における新たな AIDS 患者報告数は 469 件で、08 年、09 年の 431 件を上回り、過去最多を更新したことが明らかになりました。今後も、市内での推移を注視するとともに、感染予防と検査による早期発見・治療が重要です。
- 6 **梅毒**: 1 件(早期顕性梅毒 1 期)の報告がありました。国内の異性間接触によるものです。
- 7 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 2 件の報告がありました。国内での性的接触が推定されています。
- 8 **劇症性溶血性レンサ球菌感染症**: 1 件の報告がありました。
- 9 **風しん**: 5 月は 5 件の報告がありました。横浜市の 4 ~ 5 月の報告件数は計 10 件で、昨年度の報告総数 3 件をすでに上回っています。東京都、川崎市等近隣地域での流行は見られません。風しんは、麻しんと非常によく似た症状を呈する場合があります。10 件のうち 6 件については、風しんと麻しんの両方の可能性が疑われたため、麻しん PCR 検査を実施したところ、6 件全例が陰性となりました。
- 10 **麻しん**: 7 件の報告がありました。乳幼児 2 件の他は成人の感染でした。7 件のうち、乳幼児 2 件と成人 2 件で予防接種歴がありましたが、他は不明でした。6 件について麻しん PCR 検査を実施しており、うち 3 件は陰性、3 件は検査中です。東京都での流行は、17 週 20 件、18 週 8 件、19 週 12 件、20 週 19 件と推移しています。なお、現在、ヨーロッパを中心に流行がみられ、輸入例についても注意が必要です。
麻しん患者数の減少に伴って、全数検査が重要になっています。診察時に麻しんを強く疑った場合、横浜市の検査診断フローに基づき、麻しん PCR 検査の対応と、麻しん抗体検査をお願いします。また、できるだけ早く発生届、患者連絡票の提出をお願いいたします。

各感染症については、横浜市衛生研究所 HP をご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/>

定点把握の対象

- インフルエンザ:**今シーズンは、今年第 11 週にピーク(定点当り 40.05)を示しましたが、その後漸減し、第 18 週 0.54、第 19 週 0.31、第 20 週 0.27 で、流行の目安である 1.0 を下回り、ほぼ収束しています。
- 水痘:**第 17 週では瀬谷区で定点当り 4.00、18 週に緑区 4.00、19 週に旭区 4.33、瀬谷区 4.75 と注意報レベルとなりましたが、20 週では各区とも注意報レベルの区はなく、市全体でも 1.77 と落ち着いています。20 週では、全国 1.56、県域(横浜、川崎、相模原を除く神奈川県)1.35、川崎市 0.94、東京都 1.61 でした。
- 伝染性紅斑:**第 20 週では、栄区で定点当り 4.00 と、警報レベルを上回りました。他に警報レベルの区は無く、市全体でも 0.65 と落ち着いています。例年初夏から流行が見られる疾患ですので、今後の推移に注意が必要です。20 週では、全国 0.92、県域 0.76、川崎市 0.73、東京都 0.88 でした。
- 性感染症:**性感染症は、産婦人科系の 10 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 17 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。4 月では、性器クラミジア感染症は男性が 14 件、女性が 12 件でした。性器ヘルペス感染症は、男性が 6 件、女性が 14 件です。尖圭コンジローマは、男性が 11 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は、男性が 8 件でした。
- 基幹定点週報:**クラミジア肺炎の報告が 1 件(3 歳女児)ありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告は今年に入って 1 件もありません。マイコプラズマ肺炎は、第 4 ~ 6 週の計 4 件のみで、その後は報告されていません。
- 基幹定点月報:**4 月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症 10 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

週	月日
第 16 週	4 月 18 ~ 24 日
第 17 週	4 月 25 ~ 5 月 1 日
第 18 週	5 月 2 ~ 8 日
第 19 週	5 月 9 ~ 15 日
第 20 週	5 月 16 ~ 22 日

疾病	警報		注意報
	開始 基準値	終息 基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	なし
A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎	8	4	
感染性胃腸炎	20	12	
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	なし
伝染性紅斑	2	1	
百日咳	1	0.1	
ヘルパンギーナ	6	2	3
流行性耳下腺炎	6	2	
急性出血性結膜炎	1	0.1	なし
流行性角結膜炎	8	4	

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>